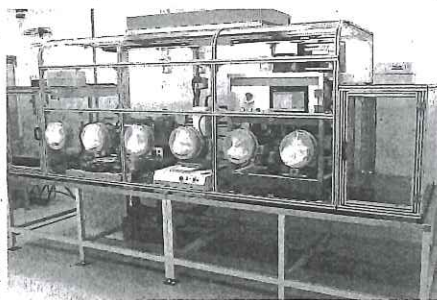


IoTセンサー参入

三井物産、生産会社に出資

数百億円支援

三井物産はあらゆるモノがネットにつながる「IoT」向け半導体センサーの生産に乗り出す。半導体の受託生産をするコネクテックジャパン（新潟県妙高市）に出資、運転資金など数百億円規模で支援する。世界初の低温実装技術の採用提案や中国に持つ生産拠点を活用などを通じて成長を促す。年1兆個を超えて伸びる市場を取り込む。



コネクテックは低温低圧力で加工できる技術を生かし、組み立て装置も省スペースにできる

コネクテックは半導体の後工程といわれるシリコンチップを保護し、基板に接続できるようにする実装技術の開発や受託生産を手がける。通常セ氏200度を超える温度と圧力をかける必要がある

が、80度で実装できる世界初の技術を持つ。低温、低圧力で加工するため、組み立て装置も会議室の机程度の大きさで済む。樹脂や繊維といったこれまでチップを載せることができなかった素材への応用が見込める。これまでも時計やスポーツ衣料メーカーなどで約100社からセンサーを装着した製品の開発や生産を受託している。

三井物産は液晶パネルや医療機器、電池などの電子材料の販売を手がけ、多くの企業と取引がある。中国ではスマートフォン（スマホ）の液晶モジュールなどのEMS（受託製造サービス）の運営もしている。新たに活用ができそうな素材を持つ取引先にコネクテックを紹介するほか、中国のEMSをコネクテックに活用してもらうことも検討する。

IoT市場は拡大している。パソコンや自動車だけでなく、発電所や工場といったインフラ、家電や衣服までセンサーの搭載先が広がりネットに接続されるモノは20年までに530種類に達するといわれる。コネクテックはパナソニックのOBが09年に設立した。ソニーや東芝といった電機メーカーのOBも多い。足元の売り上げは10億円程度だが、三井物産との連携で中長期的に100億円まで拡大、20年の株式上場を目指す。

「1兆個市場」取り込み

光や加速度、温度、指を越えたとされ、市場も紋といった様々な情報を6兆〜10兆円まで広がる読み取るセンサーを受注とみられる。三井物産は生産する。センサーの需自社の経営資源を活用し要は23年ごろに年1兆個でコネクテックの成長に

つなげ、急拡大する市場を取り込む。

三井物産はコネクテック株式の3分の1超を取得、役員クラスの人材を派遣する。債権債務や在庫の管理などの資金面を手当とする。